第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

ヤマドリタケ

Boletus edulis

吹春俊光（元千葉県立中央博物館）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　菌類分科会

環境省 編

令和７（2025）年３月

この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：吹春俊光. 2025. ヤマドリタケ. 環境省（編） 第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物.

Citation: Fukiharu, T. 2025. *Boletus edulis*. *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook: Threatened wildlife of Japan*.

イグチ目 Boletales　イグチ科 Boletaceae

ヤマドリタケ

Boletus edulis

カテゴリー判定結果　情報不足（DD）　①

基準 A:　データ不足	基準 B:　―	基準 C:　―	基準 D:　―	基準 E:　―

環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧カテゴリーに移行し得る属性（具体的には次の要素）を有しているが、生育状況をはじめとしてカテゴリーを判定するに足る情報が得られていない種。

①どの生育地においても生育密度が低く希少である。

【判断理由】

本種の生育の中心地は，北海道や本州の標高の高い針葉樹林帯（トウヒ林、ドイツトウヒ林、トドマツ林、エゾマツ林、シラビソ、コメツガ林など)、ブナ科林（ミズナラ林)、カバノキ科林（シラカンバ）などであり、同様な環境に広く分布していると推測されるが、現在得られている調査や標本等による発生情報は限られており、どの生育地においても生育密度が低いと判断される。各種開発行為により生育地の存続がおびやかされている状況にあるが、本種の減少度合いについて明瞭に推測することができず、今回の評価は DD とした。

評価分科会：　菌類分科会

概要

欧米ではいわゆるポルチーニとよばれるきのこの代表種で、日本では北海道や中部山岳地帯の標高 1000 m 以上の地域にみられ、主にマツ科やブナ科樹種と共生する外生菌根菌。人間の生活圏とはやや異なる森林に依存する種類であるが、その生息地は国内のごく限られた地域であり、各種開発行為により生息地の存続がおびやかされている状況にある。

基礎情報

【形態】

子実体の傘表面は平滑で粘性があり径は 5-20 cm，褐色から淡褐色。柄の長さ 10-20 cm、上半部には網目模様がある。管孔は最初白色の菌糸でおおわれ、のち淡黄色から帯オリーブ緑色。日本ではヤマドリタケモドキと混同されてきたが、後者は主にブナ科樹林に発生し、柄全体に網目をもち、幼時傘表面に短細毛をもつ点で異なる。

【生活史】

生活史の詳細については不明である。

【生育環境】

トウヒ属、モミ属などのマツ科針葉樹林、またブナ科のミズナラ林、カバノキ科のシラカンバ林にも発生する外生菌根菌。北半球に分布し、日本では本州中部以北の山岳地、ミズナラ、シラカンバ、シラビソ林、またトウヒ林にみられる。具体的には、長野県の乗鞍岳や八ヶ岳では、別荘地やスキー場周辺の開けたミズナラ林、その上部の亜高山帯針葉樹林に見られ、夏から秋（8-9 月）にかけて発生する。北海道ではトドマツ林、エゾマツ林などに発生する。

生育環境区分：	【陸域_中標高地】森林
国土地域区分：	(1) 奥山自然地域, (2) 里地里山・田園地域

【分布域】

北海道・青森県・福島県・茨城県・山梨県・長野県・岐阜県・京都府・鳥取県などのトウヒ林、ドイツトウヒ林、トドマツ林、エゾマツ林、シラビソ・コメツガ林など、またブナ科のミズナラ林、カバノキ科のシラカンバ林にも発生する。

現在の生育状況

【分布域の現況】

詳細については不明である。

【生育地の現況】

北海道や中部山岳地帯の標高の高いマツ科樹林などに発生するが、人間の生活圏とはやや異なる森林に依存する種であるため情報は少なく、詳細については不明である。

【個体数の現況】

詳細については不明である。

存続を脅かす要因

森林伐採　スキー場　土地造成　道路建設

要因の区分：	（過去）	森林伐採, スキー場, 土地造成, 交通インフラ建設, 気候変動

	（現在）	森林伐採，スキー場，土地造成，交通インフラ建設

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	ヤマドリタケ	*Boletus edulis* Bull.	DD
第４次 2019：	ヤマドリタケ	*Boletus edulis* Bull.	DD
第４次 2018：	ヤマドリタケ	*Boletus edulis* Bull.	DD
第４次 2017：	ヤマドリタケ	*Boletus edulis* Bull.	DD
第４次 2015：	ヤマドリタケ	*Boletus edulis* Bull.	DD
第４次：	ヤマドリタケ	*Boletus edulis* Bull.	DD
第３次：	ヤマドリタケ	*Boletus edulis* Bull.	DD
第２次：	－	－	―
第１次：	―	―	―

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和４年度末時点）

青森県[重要希少野生生物（B ランク）] 長野県[情報不足（DD）] 愛媛県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)]

保護に係る法令指定状況（令和４年度末時点）

指定なし

参考文献

- 長沢栄史，1989．イグチ科．今関六也・本郷次雄（編），原色日本新菌類図鑑 II，pp. 1-44．保育社，大阪.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Boletus edulis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Boletus edulis* is listed as DD under criteria ①.

The species that possesses attributes which could easily shift it into the threatened categories due to changes in environmental conditions (specifically, the following criteria), yet lacks sufficient data, including habitat status, to determine its category.

①Low population density and rarity are exhibited in all habitats where it occupies.	
Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Mid-altitude area】Forest
Threat types:	Logging and wood harvesting, Ski resort development, Land development, Transportation infrastructure construction, Climate change
Law designation status for conservation	—



執筆者: Author:	吹春俊光（元千葉県立中央博物館） Toshimitsu Fukiharu

公表年月：2025 年 3 月